

ツクモジュズサンゴ

イシサンゴ目シオガマサンゴ科

石川県カテゴリー 地域個体群

国カテゴリー なし

Culicia japonica tenuisepes Ogawa, Takahashi and Sakai

選定理由

能登町の九十九湾で発見された非造礁性の群体イシサンゴ。

形態

ポリプはオレンジ色か透明、英(骨格)は白色で直径約5mm。直接岩などに固着し、各個虫は共骨で連なり群体を造る。沈設されたテトラポッドや自然石等にも群体を形成することがある。

国内分布

能登半島と山形県の飛島、佐渡島に分布する。

県内分布

主に能登半島の内浦海岸に分布しているが、外浦海岸でも小規模な群体の生息地が見つかっている。

生態

生息場所は平均水面から水深約2mまで。岩礁の水直面やオーバーハングした天井部の内側等で大規模な群体が形成されることがある。

生息地の条件

生息場所の環境条件ならびに生息水深はムツサンゴと類似するが、本種が主に岩の垂直面や窪みの内側を好むのに対し、ムツサンゴは比較的平坦な岩肌を好む傾向がある。

生存の危機

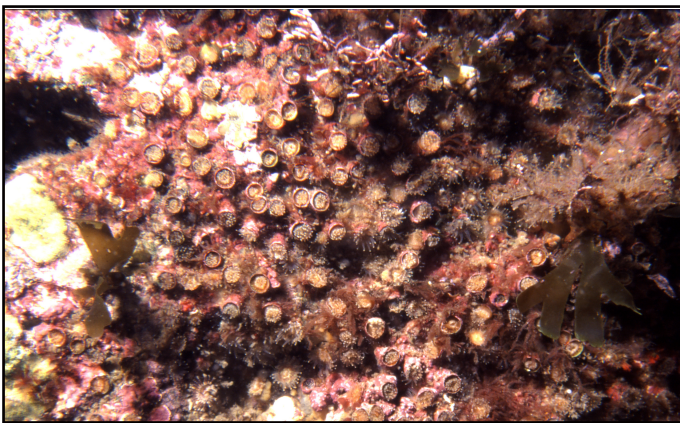
生息水深が浅いので、自然海岸の減少に伴う生息適地の破壊が危惧される。

特記事項

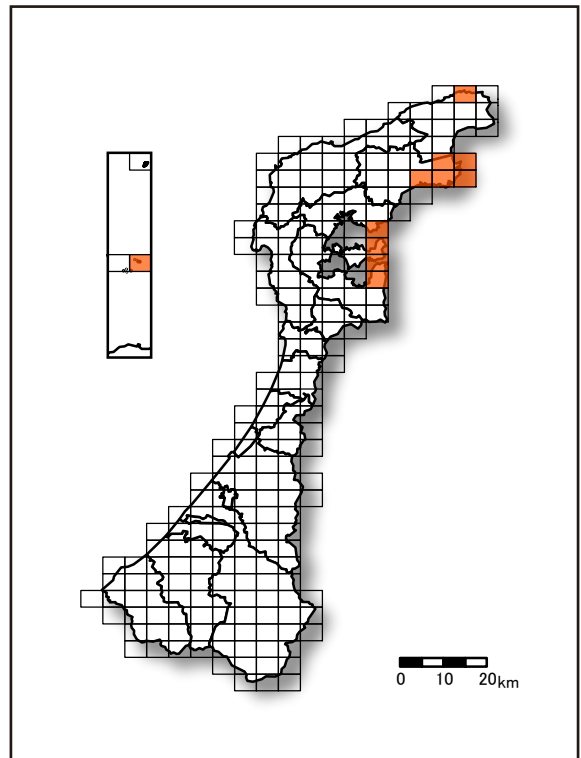
産卵期は夏。本種は有性生殖で別の新しい場所に個虫を着底させて群体数の増殖を図り、無性生殖(芽生)で群体内の個虫数を増加させる。

参考文献

- Ogawa, K., K. Takahashi and K. Sakai. 1997. Notes on Japanese Ahermatypic Coral-I, New Species and Subspecies of *Culicia* and *Phyllangia*. Publications of the Seto marine Biological laboratory, 38(1/2): 45-52.
- 坂井恵一・筒井功・山岸祐一・又多政博・小川数也・矢島孝昭. 1996. 九十九湾で確認されたジュズサンゴ属の一種 *Culicia* sp. について. のと海洋ふれあいセンター研究報告, (2): 1-5.
- 坂井恵一・小川数也・筒井功・福島広行. 1997. ツクモジュズサンゴ(新称和名) *Culicia* sp. (Scleractinia, Rhizangiidae)に見いだされた受精卵とプラヌラ. のと海洋ふれあいセンター研究報告, (3): 1-8.
- 坂井恵一・筒井功・福島広行. 1997. 能登半島におけるツクモジュズサンゴ *Culicia* sp. (Scleractinia, Rhizangiidae) の分布と生息状況. のと海洋ふれあいセンター研究報告, (3): 9-16.
- 小川数也・坂井恵一. 1997. ツクモジュズサンゴ *Culicia* sp (Scleractinia, Rhizangiidae) に見いだされた共生藻とラン藻について(予報). のと海洋ふれあいセンター研究報告, (3): 17-21.



写真提供者: 坂井恵一



県内の分布